

一部大学院基礎科目（「コース・ワーク」）

共通採点方針についての覚書

2008年4月1日

- ① コース・ワークとは： 経済学の専門家となるために習得すべき知識を、短期間で効率よく身につけるための授業群のこと。
- ② コース・ワークとなる大学院基礎科目： ミクロ経済学（前期：梶井・森）、マクロ経済学（後期：柴田・中嶋）、計量経済学（後期：西山）、経済学のための数学（前期：小佐野・原）
- ③ 成績評価基準の統一： コース・ワークの授業では、成績評価の基準を原則として以下のように統一する。（いずれも受講者に対する％）

A 評価 30%以下

B 評価以上 60%以下

- ・ 成績の比率を統一する趣旨は、相対的評価基準を導入することで学習到達度を **客観的に** 学生本人および教員に伝達することにある。
- ・ 担当者の判断によって、これよりも厳しい基準を導入することは妨げない。ただし、その場合は、担当者から適宜アナウンスして学生に周知させるものとする。
- ・ また、最低基準に達しない学生には単位を与えないことを徹底して実行する。 **いかなる「救済措置」も許容されない**。過去の経験則によれば、10%以上の学生が最低基準に達しないものと予想される。

- ④ コース・ワークの成績と研究指導の関係： 上の方法で相対評価を行うことにより、コース・ワークの成績が学生の潜在的研究能力を測るための有効な指標となる。このため経済研究所所属の教員によっては、コース・ワーク全て（あるいは「経ため数」を除く3科目）で所定の水準以上の成績を修めていることを、論文指導の条件にすることが予想されるので、現時点から注意されたい。（個別教員の指導方針は、本人に直接問い合わせること）